会議要録

会議の名称	令和2年度 第1回和光市史編さん委員会
日時	令和2年8月26日（金） 14:00～16:15
場所	和光市役所 4階 403会議室
出席者 ※敬称略	<p>【和光市史編さん委員会委員】 委員12名のうち11名が出席 学識経験を有する者（要綱第3条第1項第1号委員） 宮瀧交二、鈴木敏弘、小柳一彦、田中明、田中俊 和光市自治会連合会の推薦を受けた者（第2号委員） 伊藤芳夫 公募による市民（第4号委員） 佐々木好評、牧田忍 続編の編さんに係る事業を受託した事業者を代表する者 佐々木寛司（遠隔通信 zoom での出席） 教育部長及び企画部長（第3条第1項本文） 結城浩一郎、中蔦裕猛</p> <p>【事務局】 [教育委員会] 大久保昭男教育長 【生涯学習課 和光市史編さんプロジェクト・チーム】 [チームリーダー]茂呂あかね [チームサブリーダー]鈴木一郎 [チームメンバー]糸野友也、相田由莉、（会計年度任用職員）石田清、 坂口由加里</p> <p>【委託業務受託者】 株式会社ぎょうせい関東支社 黒沢調査役、松川副参事、磯 writer</p>
傍聴者	0名

1 開会

○事務局より説明

1. 市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。
2. 欠席委員の報告

○教育長あいさつ

本日はご多用のところ第1回和光市史編さん委員会にご出席いただきありがとうございます。市史編さん事業は市政50周年を記念しまして新たな視点で和光市の歴史を明らかにすることにより市民の方々の関心と魅力を深め、今後の街づくりに繋がっていくと捉えております。前回編さんの市史は昭和60年頃までの内容となっております。今回は平成の

時代を中心に今日までのおよそ35年間で和光市がどのように発展してきたのか明らかにすることで市民の方々の一層の関心を深めていただくことに繋がっていくと捉えております。第1回の委員会は当初は4月に予定しておりましたが、コロナ禍の中で開催が延びてしまいました。編さんする時間が短くなってしまいますが、事業に携わっているみなさんにご協力いただいて素晴らしい和光市史が編さんできますようお願い申し上げてあいさつに変えさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○事務局より説明・報告

1. 新委員に委員長は宮瀧交二氏、副委員長は結城浩一郎教育部長と決定していることを周知。

○委員長あいさつ及び委員・事務局の自己紹介

○事務局より和光市史平成版編さん業務について説明

新委員に今までの経緯を知らせるために、

1. 市史編さん対象期間
2. 市史編さんの基本方針
3. 刊行物の体裁等
4. 成果物

などについて資料に沿って説明。

○宮瀧委員長

概要を説明していただきましたが、何か質問等がありましたらお願いいたします。従来の市史の作成方法と大きく違うことは業務委託する点である。編さん委員が内容を監修し、意見を出すことが大事で内容についての責任は私たちにあると考えています。

○鈴木委員

平成30年間、市民が選んだ歴代市長の施政方針や変革、行政としての取り組み等を盛り込むのも良いのではないかと思う。

○牧田委員

政治色が強く出るのはあまり好ましくないのではないか。

○宮瀧委員長

時間をかけて作っても活用されないと意味がない。市内の小・中学校の先生に授業で使ってもらえるような、またどんな方が読んでも興味深いそのような本にしていけたらと考えています。

2 議題

(1) 和光市史平成版の編さんについて

(2) 編集スケジュール等の妥当性

○事務局

和光市史平成版の全体構成や編集方針などについて、ぎょうせい関東支社から、本日の会議に出席されている方の紹介をいただいた上で具体的な説明をお願いします。質疑後、「2 編集スケジュール等の妥当性について」の説明をお願いします。

○ぎょうせい担当者自己紹介

○宮瀧委員長

内容のご説明をよろしくお願いいたします。

○ぎょうせい磯

編集方針ならびに目次構成案につきましてご説明をさせていただきます。まずは編集方針からですが、概ね昭和 61 年から平成、令和 2 年度末にかけての和光市の歴史をたどることとなります。

昭和 63 年刊行の既刊市史の対象時代に関しては、全体の 1/4 の 100 ページ程度を充てることとなっております。平成に入り発掘調査が進んだ考古の遺跡については新しい成果として盛り込みます。本編を 400 ページ程度でまとめ、全体で 420 ページ以内の書籍とする予定です。

次に編集のコンセプト等についてですが、和光市の個性を明らかにできればと考えております。東京隣接地としての特性、市民の意識、平成の合併問題等を探求していくことで個性がより浮き出るようになればと考えております。また、市民に身近な市史として、歴史として広く後世に残るような歴史書を目指し、羅列的ではなく具体的な記述を心掛けます。取り上げるテーマは興味本位なセレクションにならず本質を意識できるような項目を取り上げる形とします。

歴代市長の施政方針、総合振興計画などについても取り上げ、推移と現況を確認いたします。市職員 OB の方々への聞き取りを通してより具体的な姿として提示いたします。資料を読み込むだけでなくリアルな市政に携わった方の声として取材を通してあきらかにしていきたいと思えます。また、同時に市民の方々へのインタビューも進め、市民生活の実態として要望なども取り上げていけたらと思えます。聞き取りは老若男女、様々な職業従事者、年齢層も幅広く対象とし、集めた声はいろんな項目の中にエッセンスとして落とし込んでいけたらと考えております。聞き取りに関しては他者の記憶、資料等で確認を取りながら慎重に取り扱っていくことを方針とします。また和光市における日本のなかでの共通性や普遍性を表現していきます。

次に具体的な目次構成案ですが、大きく 3 章に分かれております。序章では和光市の個

性をさぐるという内容で約 50 ページを予定しておりますが、減らす可能性もあります。いくつかのテーマを取り上げて簡単にアプローチできるページといたします。

第 1 章では昭和 61 年から令和 2 年度末までの約 35 年間の編年体による各年度を見開き 2 ページ程度の構成として歴史の流れを提示いたします。写真などを用いて和光市の歴史が分かりやすく迎えられるような特集的なページにできたらと考えております。編年体でわかりやすい文章とし、ドキュメンタリータッチに提示することで平成の和光市の流れが一通りつかめるページにと考えております。また、見開きにはサブタイトルとしてその年の和光市を象徴するような具体性のあるタイトルを付します。和光市だけでなく国内外の社会の動きとリンクするような形で展開することにより平成の日本と和光市はどうであったかが分かるようなページ構成を考えております。

順序が逆になりますが、第 2 章で和光市の歴史をふりかえり、原始・古代から昭和 60 年ぐらいまでの 3 つに分けて記述し、約 100 ページを予定しております。それぞれの項目にはトピックス欄を設け、たとえば歴史のはじまりからアジア・太平洋戦争終結までの項目であれば、「トピックス：考古資料の新発見相次ぐ」とし、平成の時代に発掘された遺跡を紹介していきます。また、特論として国指定史跡となった午王山遺跡について大きく取り上げることを考えております。

第 3 章はいわゆる通常の市史などで分野別に記述されていく部分となります。第 1 は行財政、第 2 は産業関係になります。第 3 は生活の基盤の整備と暮らし、第 4 は社会福祉・保健・健康など、第 5 が教育・生涯学習・スポーツ・文化の振興、第 6 が昭和に発行された市史のテーマだと思いますが、変わりゆく街のすがたということで比較的新しいテーマを取り上げます。第 7 は環境対策・防災などに関して記述します。第 8 では持続可能な自立した地域社会を求めてというテーマを取り上げ、将来和光市がどのようになっていくのか含みを持たせて終わらせる 3 章仕立ての構成となっております。

○ぎょうせい松川

資料 1：編集方針及び目次構成案の説明をさせていただきました。続けて資料 2：全体工程案、資料 3：令和 2 年度年間行動計画について説明してもよろしいでしょうか。

○宮瀧委員長

編集スケジュールについては次の議題でお願いします。

事務局への確認ですが、ぎょうせいから提案の説明を受けて検討はされているのでしょうか。

○茂呂プロジェクトリーダー

内容につきましてはやり取りをさせていただいております。現時点で調整がついた内容を委員会のみなさまに協議していただきご意見をお聞かせ願えればと思います。

○宮瀧委員長

編集方針と目次構成は確定しているわけですが、今日決定させるのかそれともご意見を伺って次回に決定するのか。我々委員は今日初めて内容を拝見したので、今日の段階で決定は難しいと思います。

○茂呂プロジェクトリーダー

今日決定するのではなく議論していただき、ご意見をお聞かせ願えればと思います。

○ぎょうせい松川

全体工程案では8月に全体の構成の確定、目次案の検討・確定していることになっているので、こちらだけでも本日決定していただければと思います。

○宮瀧委員長

編集スケジュールは次の議題でと申しましたが、続けてご説明をお願いいたします。

○ぎょうせい松川

資料2の全体工程案の説明をさせていただきます。市史の発行は令和5年3月を目標に作業を進めて参ります。執筆した原稿の精度を上げていくために校正は3回行い、委員会のご了解を得て印刷・製本段階に入ります。全体の工程を大きく分けると令和2年度から3年度末までにはある程度原稿を確定できるよう作業を進めていきます。作業時間が短くなっていることでもありますので、できれば大きな骨子としての方向性を本日議論していただきご提案していただければと思います。つづきまして資料3ですが、こちらは弊社の今年度の具体的な予定となっております。

○宮瀧委員長

コロナ禍でイレギュラーが発生しておりますが、工程表を見ますと全体の構成と目次案を本日の会議で確定することになっています。次回の編さん委員会まで決定を引き延ばすことは可能でしょうか。委員の方々にご意見をお聞きして大きな変更がなければその他の作業は進めていただいて問題ありませんが、本日の会議で構成と目次案を決定するのはどうでしょうか。委員のみなさんご意見をお願いいたします。

○鈴木委員

目次構成ですが、今の配列では分かりにくいのではないかと思います。第2章のつぎに第1章の順番のほうが流れとしては分かりやすいのではないかと。序章で取り上げる自然環境と気候・風土と第2章の歴史を一緒の項目にしたらどうか、また第2章で100ページは多いと思います。

○ぎょうせい松川

和光市から提示された編集仕様では第2章は既刊市史の内容を100ページでまとめるということとなっております。

○鈴木委員

第1章、第3章の間に歴史をふりかえる内容の第2章が入るのは違和感を感じる。

○ぎょうせい磯

順番に関しては弊社でも議論いたしましたが、今回の市史は平成がメインとなるので第1章を特集的に提示し、順番が逆にはなりますが第2章で歴史をふりかえるという構成といたしました。

○鈴木委員

ページの割り付けですが、序章と第2章で150ページ、第1章と第3章で250ページとなっています。これでは平成版と言っても平成の記述が少ないのではないかと思います。

○ぎょうせい磯

わたくし個人の考えですが、序章を圧縮して第3章に充てる編集でも良いのではと思っております。

○鈴木委員

構成の流れを見ると序章で取り上げる和光市の個性をさぐるに関しては第1章・第2章も個性になってくるのではと思っている。和光市は平成とそれ以前とでは環境等が様変わりする。記述も平成に比重を置き、今の和光市のすがたをより多く出したほうが良いのではないか。序章と第2章とで100ページ程度に圧縮してまとめ、第1章、第3章へと繋ぐ流れのほうが読みやすいのではないかと思う。

○宮瀧委員長

第3章の時代の位置付けが良くわからないのですが、第1章が平成、第2章で取り上げる歴史をふりかえるでは平成の時代は入らないのでしょうか。

○ぎょうせい磯

第2章に平成は含みません。第3章は昭和61年から令和2年までとなっております。第1章はいわゆる通史編となっており、編年体で最初に流れを提示し、第3章で分野別に具体的に記述していくということとなります。

○宮瀧委員長

そうなりますと第1章と第3章と続いた構成のほうが良いのではと思います。第2章が

このタイミングで入るのは違和感があります。委員のみなさんのご意見をお聞かせください。

○小柳委員

第2章がこの配置なのは違和感がある。第1章で特徴的な平成をたどり、第3章で細かい内容の構成となるので、離さないほうが良いと思う。また、序章の内容は第3章に入ってくるのではないかと思います。既刊史をまとめた第2章では考古資料など内容が新しく変わる個所もあると思うので、流れとしては第2章の後に第1章、第3章と続き、序章の内容が第3章に入ったほうが読む側もわかりやすくなるのではないかと思います。

○ぎょうせい磯

小柳委員のおっしゃるとおりなのですが、全体の構成を考えた際に仕様の中に既刊史で100ページという縛りとして与えられたテーマがありました関係でこのような流れとなりました。

○伊藤委員

既刊市史の部分を100ページ程度記載するというのは、どういう思惑で作ったのか。

○田中(明)委員

第2章がここに入ると繋がりが違うのかなと感じました。

○田中(俊)委員

今日初めて構成案を聞いたからと言って了承をせず、作業を止めてしまうと期日が決まっているので、停滞する恐れがあります。ページについて和光市の仕様がどうであったか分かりませんが、その中で検討していただいているので修正は必要ではあるが、基本提案していただいた内容で良いのでは思う。章立てなので、順番はいつでもつながっていくと思う。たとえば第1章の場合はどのような形で羅列されて表記するのでしょうか。

○ぎょうせい磯

編年体でと考えております。基本的には各年度を見開き2ページ構成にいたしますが、重点的に表現したい場合は4ページになることも考えられます。その中で社会の動きと和光市の動きをリンクさせ、写真等を多数使用して表現できればと考えております。

○牧田委員

編集委員会・編さん委員会・プロジェクト・チームとの関係性と役割分担についての説明をお願いいたします。もう1点、特論の国指定史跡午王山遺跡についてですが、弥生時代後期の環濠集落ということで取り上げていただきますが、午王山は里山として、また地形・地質等自然史としても多様な価値があるという点も取り上げていただけたらと思いま

す。

○茂呂プロジェクトリーダー

編集委員会は受託者が運営をし、編集方針や執筆者同士の情報交換等を行うことを目的としております。編集委員会には市職員もオブザーバーとして参加させていただきます。市史編さん委員会委員長も委員として参加することとなっております。

○佐々木委員

第1章と第2章は入れ替えた方が良いと思うが、このような章立てはよくあるものなのか伺いたい。既刊部分を少なくできないのか。また、なぜ載せるのか。

○ぎょうせい磯

今回の市史は平成版で、平成期の出来事が主となります。本を開いて100ページにわたり前回の市史を振り返るという構成よりも、第1章は編年という形で平成期をダイジェスト的に触れ、第2章で歴史を振り返ったあとに、第3章で平成期を分野別にして記載していくことの方が、読み手にとって、より“和光市史平成版”を理解いただけるのではないかと考えています。

○中蔦企画部長

章立てに関しては柔軟に対応していただければと思います。

○結城教育部長

私としても、章立てに関しては市民の方がまごつくことが無いように柔軟に対応していただければと思います。

○宮瀧委員長

ぎょうせいさんは委員の議論を聞いていかがだったでしょうか。ご意見をお聞かせ願います。

○ぎょうせい黒沢

2点補足がございます。今回の目次の構成案ですが、第1章と第3章は同じ時代ではありますが、第1章は読みやすく、誰もが手に取ってもらえるような内容でという趣旨があります。第3章は行政的な面、今後に資料的な価値を残していく分野として切り分けをさせていただきました。もう1点は今回の資料は委員の方へ事前に配布されていることを前提にお話させていただきました。スケジュール的にもある程度の方向性を本日決定していただけたらと考えておりました。今後は事前に目を通していただいてから参加していただけるよう事務局とも話をさせていただきたいと思っております。

○鈴木委員

第3章の最後に平成の和光市はどうだったのか、また和光市は令和の時代にどのように向かっていくのか展望や希望などのビジョンを出し、まとめを入れるべきと考える。

第2章も、昭和はどうだったかということが書かれた方が良い。

○宮瀧委員長

佐々木委員からご意見をもう一度お願いします。

○佐々木委員

第1章と第2章は入れ替えた方が良い。既刊部分を少なくできないのか。また、なぜ載せるのか。

○宮瀧委員長

序章ではなくプロローグとし、最後をエピローグというふうにすると、違和感がなくなるのではないか。

○鈴木委員

既刊部分100ページを少なくできないか。なぜ、載せるのか。各種データなどにより、和光市の姿を映し出すものが欲しい。

○宮瀧委員長

目次構成案に議論が終始しましたが、編集方針は特に意見がなかったので承認ということではよろしいでしょうか。

【委員一同】異議なし

○宮瀧委員長

編集方針案については承認といたします。目次構成案は継続審議とし、次回の編さん委員会で再提案していただいた内容を検討し承認することとします。

第1章とか第2章という順番を意識するので、プロローグ、エピローグとしたらどうでしょう。既刊部分は100ページに縛られないで、磯氏の考え方を尊重する。第3章を増やしてもよい。第1章、第3章を通史編、分野編等に言い換える。古いところに固執して、メインが書き足らないのでは本末転倒である。目玉になるものを大事にしたい。ビジュアルを活かして作りたい。

目次構成案は11月の委員会まで固まらなないと支障が多いので、その方向性で作り直してもらい、出来上がったなら事務局へ提出してもらって、委員長と調整してから委員へ再度提案として配付してもらい、それに対する各委員のご意見を書面で提出してもらおう形にします。

3 その他

○宮瀧委員長

次に3「その他」について何かございましたらお願いいたします。

○委員一同

特になし

○事務局

○茂呂プロジェクトリーダー

次回の編さん委員会は11月の中旬、3回目は来年の2月後半を目標にスケジュールを組ませていただき、日程は改めてご連絡いたします。9月号の広報に【こういう市史を読みたい!】という記事を掲載させていただきました。市民の方々に興味を持っていただけるよう今後も情報提供を行いながら続けてまいりたいと思います。

○鈴木サブプロジェクトリーダー

県教育委員会発行の情報誌【埋文さいたま63号】に令和2年3月10日に新たに国指定史跡となった午王山遺跡が特集記事として掲載されました。

○宮瀧委員長

次回の編さん委員会の日程は改めてご連絡をいただけるということで閉会させていただきます。

4 閉 会